



明化の教育

12月号(第484号)
令和2年12月2日
文京区立明化小学校
校長 熊倉 勝

心を一つにして創り上げる貴重な経験に

校長 熊倉 勝

11月28日の音楽会には、多くの保護者の皆様にご鑑賞いただきありがとうございました。子供たちの渾身の演奏はいかがでしたでしょうか。「夢と希望を虹色のメロディーにのせて」をテーマに心を一つにして取り組んだ音楽会。各学年のよさが表れた素敵な演奏でした。演奏中はもちろんですが、退場するときの晴れ晴れとした子供たちの姿に「やりきった。」という満足感・達成感を感じたのは、私だけでしょうか。コロナ禍で様々な教育活動が制限される中、この音楽会を通して子供たちは、学年で力を合わせて一つのものを創り上げる貴重な経験を積むことができたことが何よりの収穫でした。

今回の音楽会では、体育館に児童が一堂に会することができないため、児童鑑賞日を設けることができませんでした。そのため、27日のリハーサル時に次の学年の演奏を鑑賞するとともに28日の保護者鑑賞日には、事前に撮影した各学年の演奏のビデオを各学級で鑑賞しました。リハーサルの鑑賞後には、聴いていた学年が演奏した学年に感想を伝える時間を設けました。「聴いた感想を伝えてくれるかな。」という教師の投げかけに、どの学年も多くの子供たちが手を挙げました。「心が一つになっていました。」「声がきれいで響いていました。」「ドラムがとても力強かったです。」など次から次へと感想が出てきて、演奏によって各学年の思いがしっかり届いたことを実感しました。これらのメッセージは、子供たちの自信となり、本番の演奏により影響を与えたように思います。

このような子供の姿は、音楽の授業にも見ることができました。三部合唱の練習場面です。3つのパート別練習の後、2つのパートを合わせる活動が行われたのですが、この時、残りのパートの子が合唱を聴いてアドバイスをするようにしていたのです。「きれいなハーモニーだった。」「タイミングがそろっていてよかった。」「音量がそろっていてよかった。」など、積極的な発言がありました。子供たちの気持ちが盛り上がったところで、最後に三部合唱にチャレンジ。「バランスが取れていてよかった。最後もつられなかった。」と子供自身が納得する歌に仕上がっていました。これは、まさしく合唱をよりよいものにし、学びを深めている姿だと思いました。聴き合うという活動を設定したことで、子供たちは学びを深めることができたのです。今後もこのような学び合う活動を取り入れるなどの手立てを工夫し、子供自ら学びを深めていく授業作りに力を入れてまいります。

音楽会の実施に当たり、新型コロナウイルス感染症対策で練習後の楽器の消毒や手入れをご家庭で行っていただきました。器楽部の練習では、パート別に場所を分けて行ったため、子供たちの活動の見守りと消毒を保護者の方々にお願ひしました。音楽会当日も人数制限にご協力いただき、無事終了することができました。改めて感謝申し上げます。

カレンダーも残すところあと1枚となりました。今年も本校の教育活動にご理解とご協力をいただき、ありがとうございました。よいお年をお迎えください。